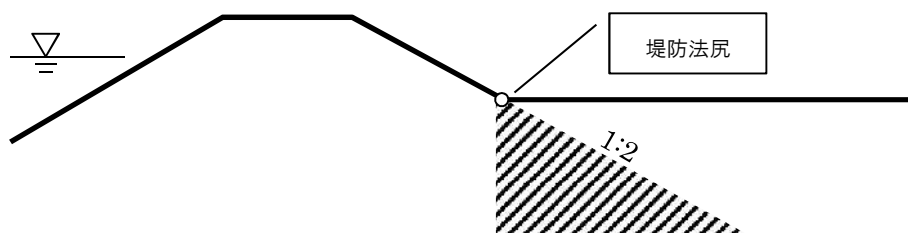


堤防に近接して工作物を設置する場合の条件（2Hルール）について

堤防法尻から1：2勾配で延伸した線より下側（下図参照）の範囲を侵害しないよう堤防から十分に離して施設を設置すること。また、電柱等を設置する場合は、地震等による被災も考慮して、根入れの3倍以上を堤防法尻から離すことが望ましいとされている。電柱等の施設を設置する場合には1：3の勾配で延伸した線より下側に根入れがないか確認すること。

施設設置のために下図斜線部分において掘削、場所打ち杭等を施工する場合には、河川構造物への影響を評価する資料の提出を求める。

本ルールは「堤内地の堤脚付近に設置する工作物の位置等について」（平成6年5月31日、建設省河治発第40号）の通達に基づいている。

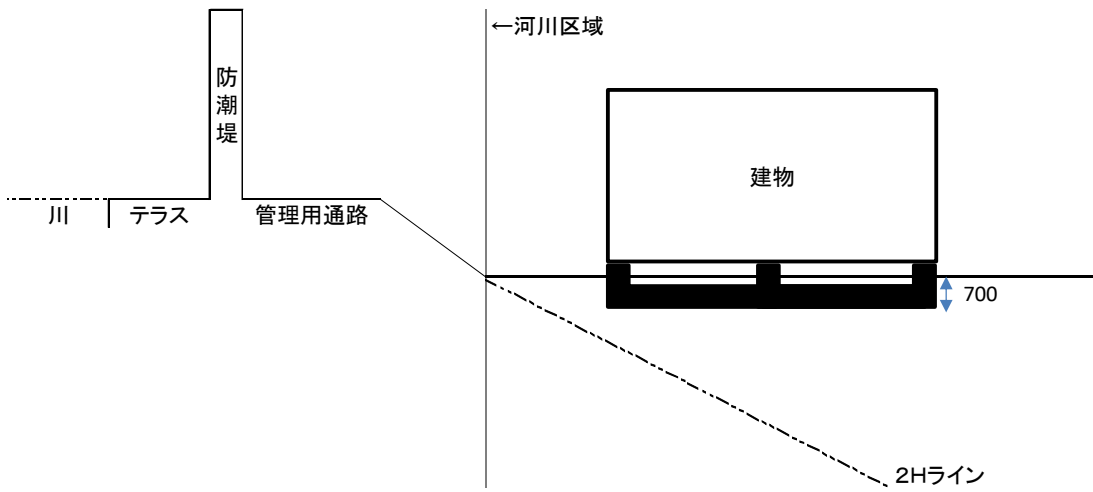


以上

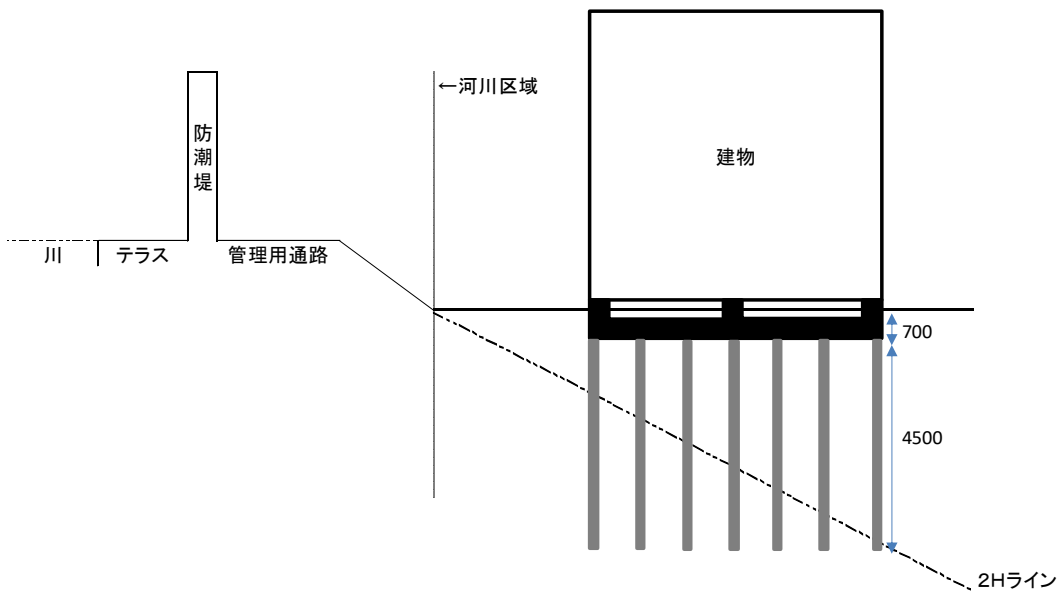
2Hルールに抵触するか確認する資料について

- 堤防法尻から1:2勾配で延伸した線を記載した横断図（各管理河川について、6ページ目以降に横断図の雛形を用意している）に掘削深などを図示した資料

〔作成例〕 2Hルールに抵触していない場合（ベタ基礎のみなど）



〔作成例〕 2Hルールに抵触する場合（杭打ち、地盤改良など）



堤防に近接して工作物を設置する場合の条件（2Hルール）抵触時の変位計測計画

(1) 変位計測方法

施工箇所周辺に定点観測箇所を設置し、標高、XY座標を計測する。

施工前に複数回計測し、当初位置、当初高を設定する。なお、複数回測定した際の位置、高さのばらつきは、自然状態での変動量及び測定誤差として、その平均値を当初位置、当初高として設定する。

(2) 計測位置

施工箇所1地点、施工箇所の上下流各1地点 合計3地点 とする。

(平面図、横断図添付)

(3) 計測時期

施工開始前、施工中1回/日、施工終了後1回とする。

(4) 変動許容値 (α)

変動許容値は、以下の通りとする。

| 計測項目 | 変動許容値 |
|------|--------|
| 水平変位 | 25 mm |
| 鉛直変位 | 6.1 mm |

(5) 変動が生じた場合の対応

施工中の計測値が施工前の当初位置（当初高） $\pm 1/2 \alpha$ を超過した場合は、計測頻度を増やすなどして経過観察を密にする。当初位置（当初高） $\pm 3/4 \alpha$ を超過した場合は、直ちに施工を中止し、対応策を検討するとともに、河川管理者に速やかに報告する。

施工再開については、施工方法、対応策について検討し、河川管理者と協議の上決定する。

(6) 報告

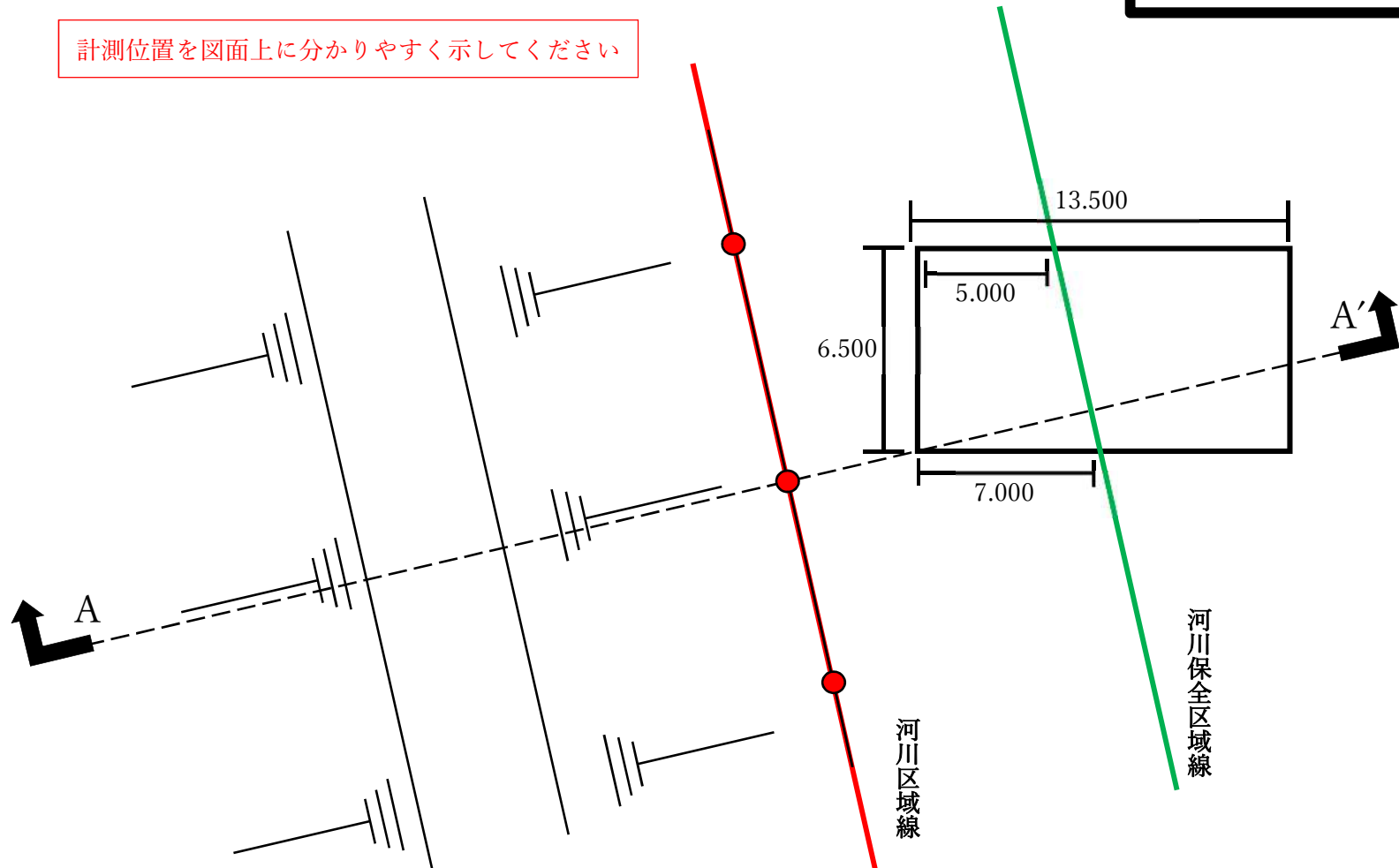
以下の時点、内容を基本に、適宜河川管理者に変動状況を報告する。

- ・変動許容値 α の 3/4 を超過した変動が生じた場合、変動量、進行を防止する対策方法、原状回復する方法について報告する。
- ・施工終了後において、施工後の計測結果、施工前との変動量、施工前からの変動量が施工後においても変動許容値 α 未満であることを取りまとめた報告書を河川管理者に提出する。

以上

変位計測位置 作成例

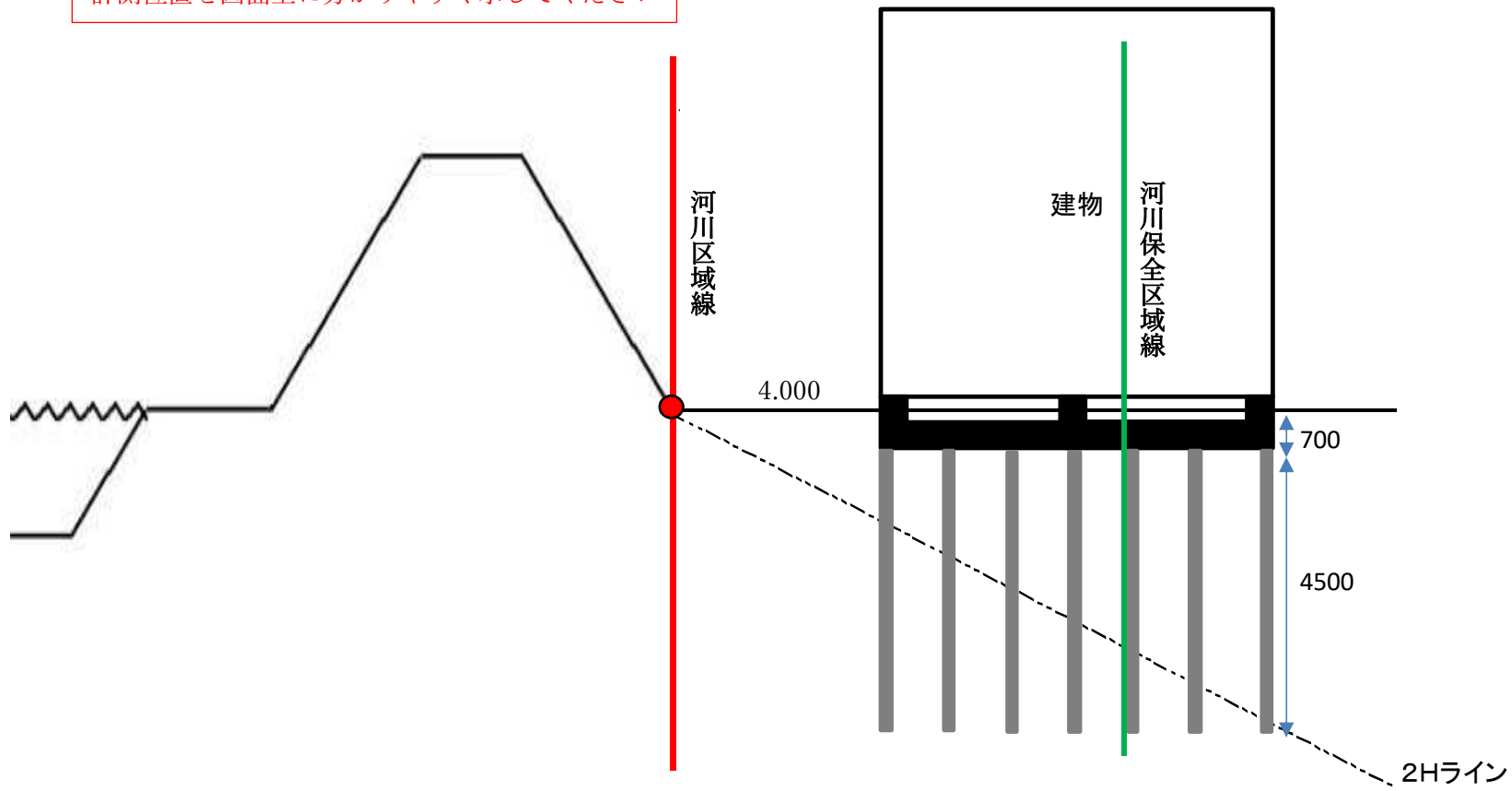
計測位置を図面上に分かりやすく示してください



計測点 : ●

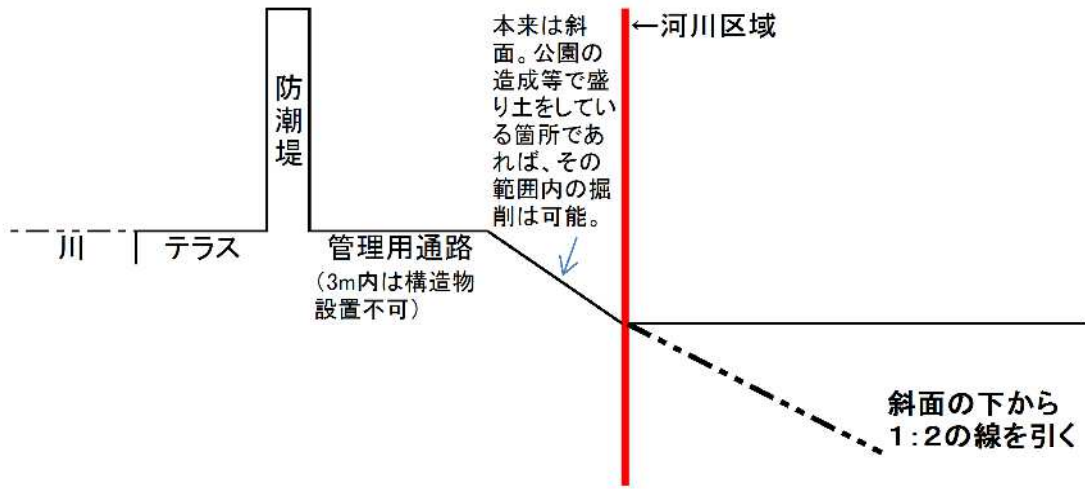
変位計測位置 作成例

計測位置を図面上に分かりやすく示してください

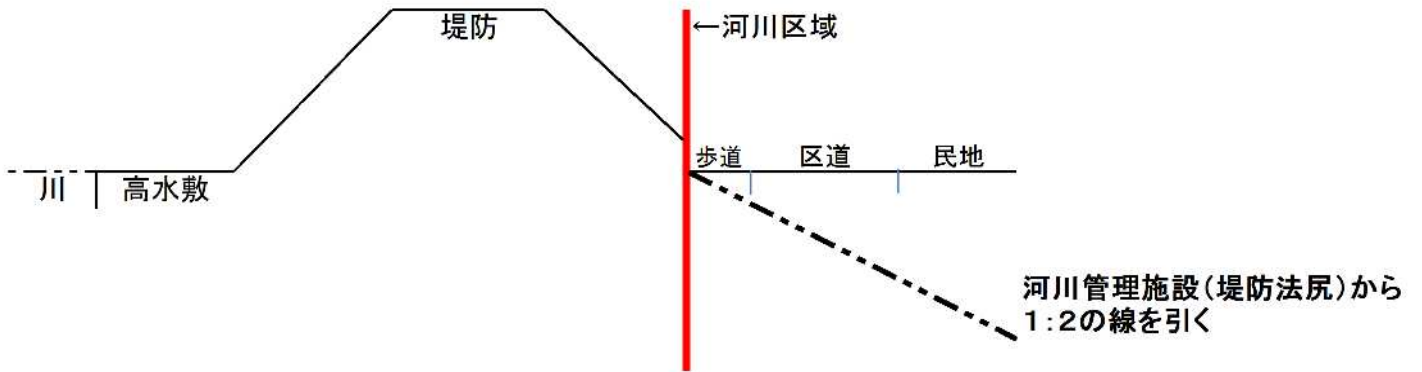


計測点：●

隅田川

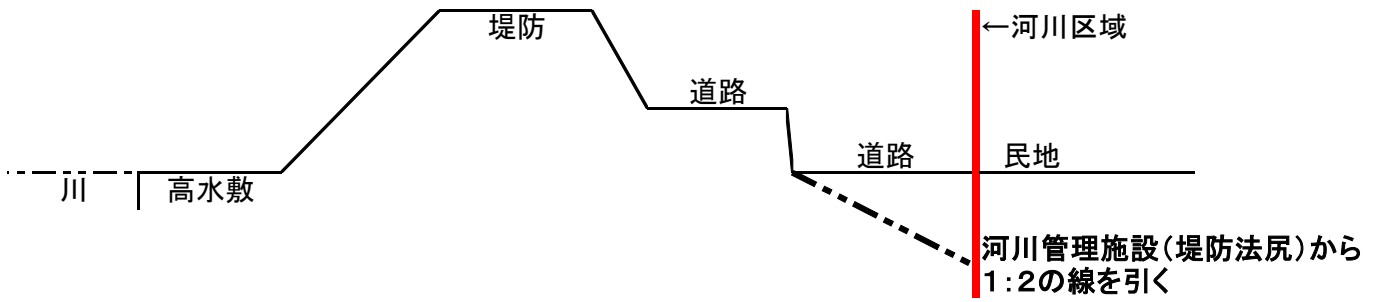


新中川

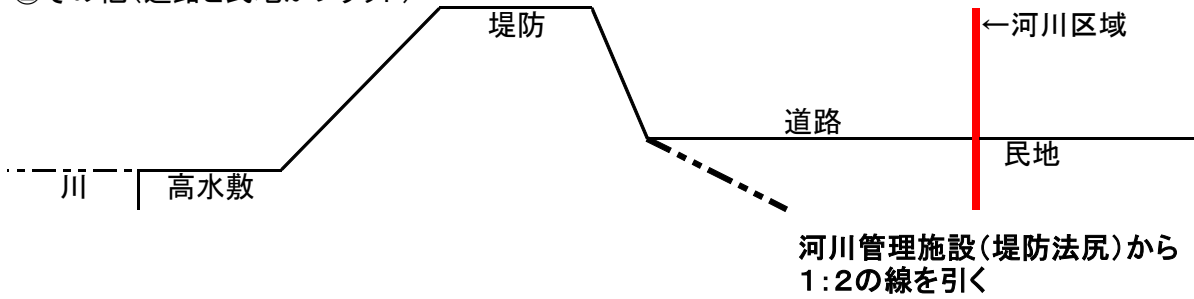


中川(直線部)

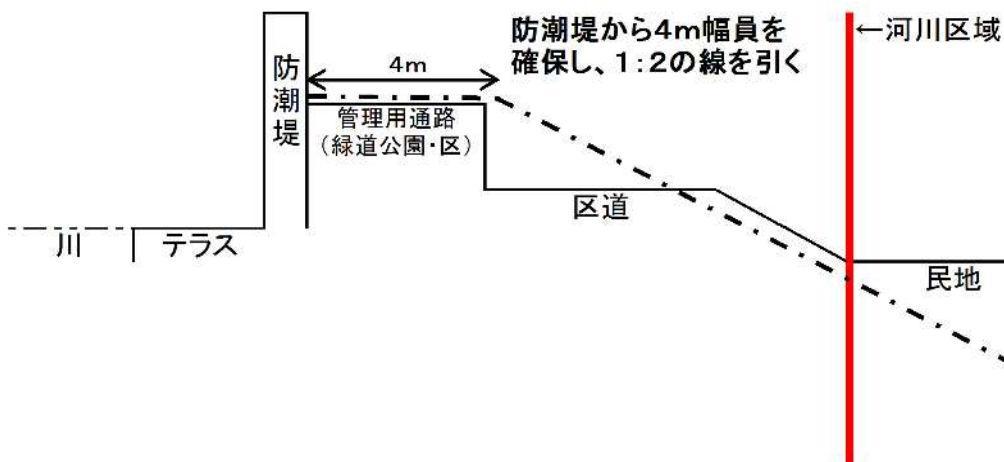
①道路が堤防と一体となっている箇所



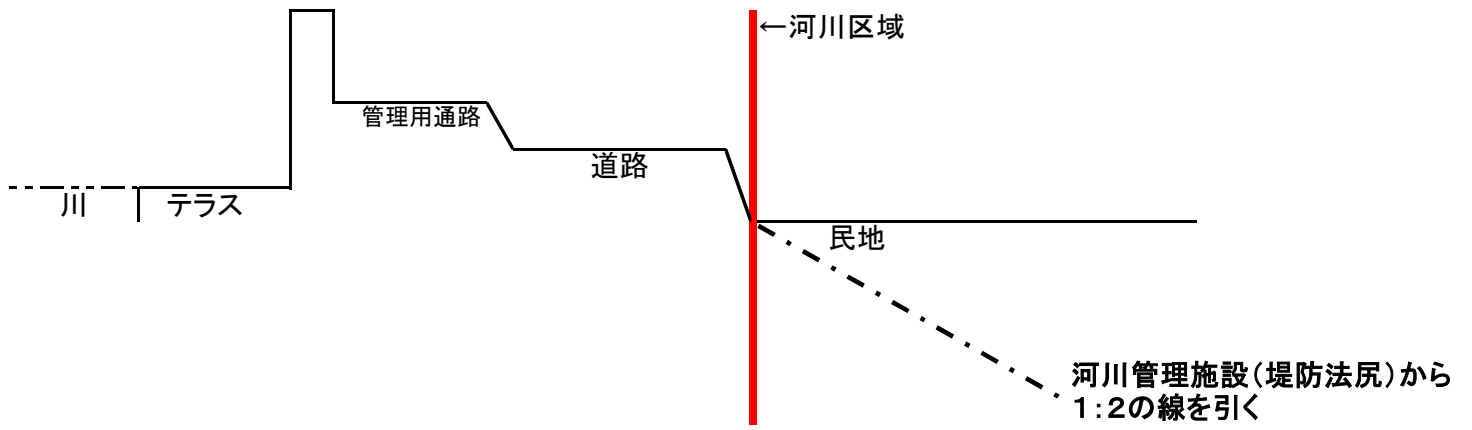
②その他(道路と民地がフラット)



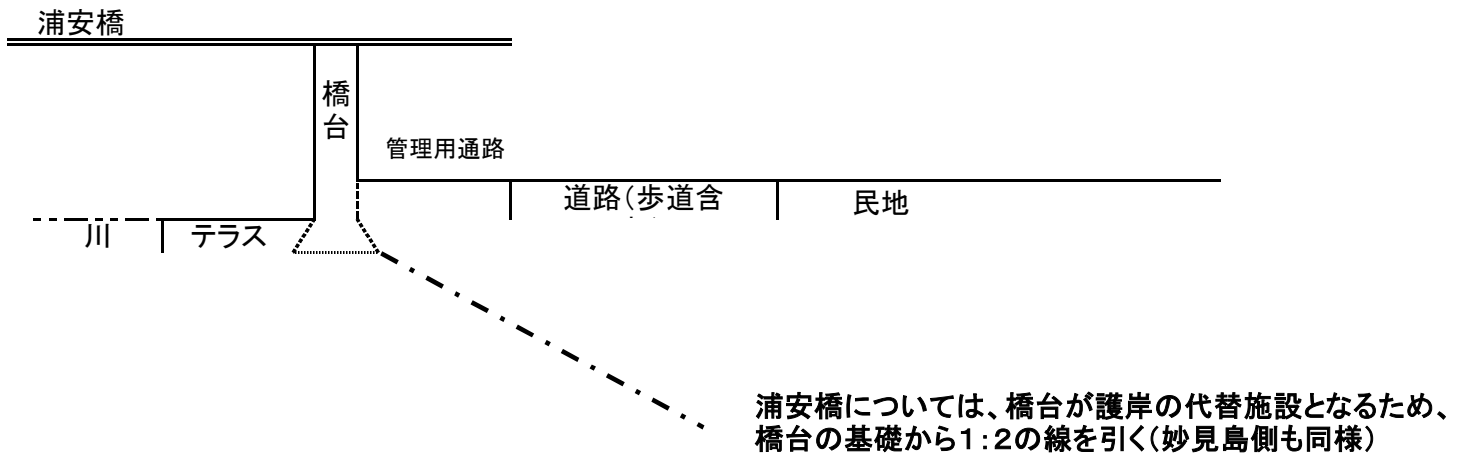
中川(七曲部)



旧江戸川

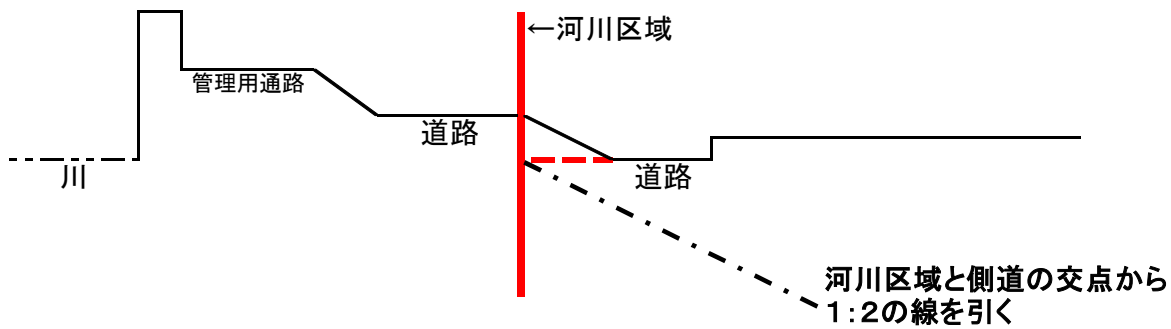


旧江戸川(浦安橋)

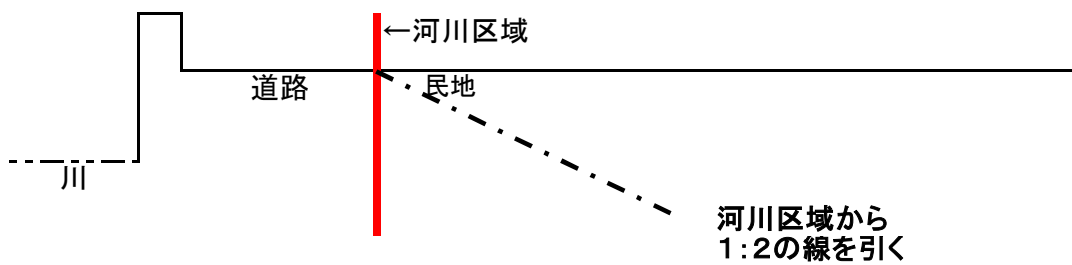


綾瀬川

①左岸、右岸(荒川との平行部)



②右岸(葛飾区小菅付近(東京拘置所前を除く))



③右岸(スーパー堤防部(東京拘置所前))

